

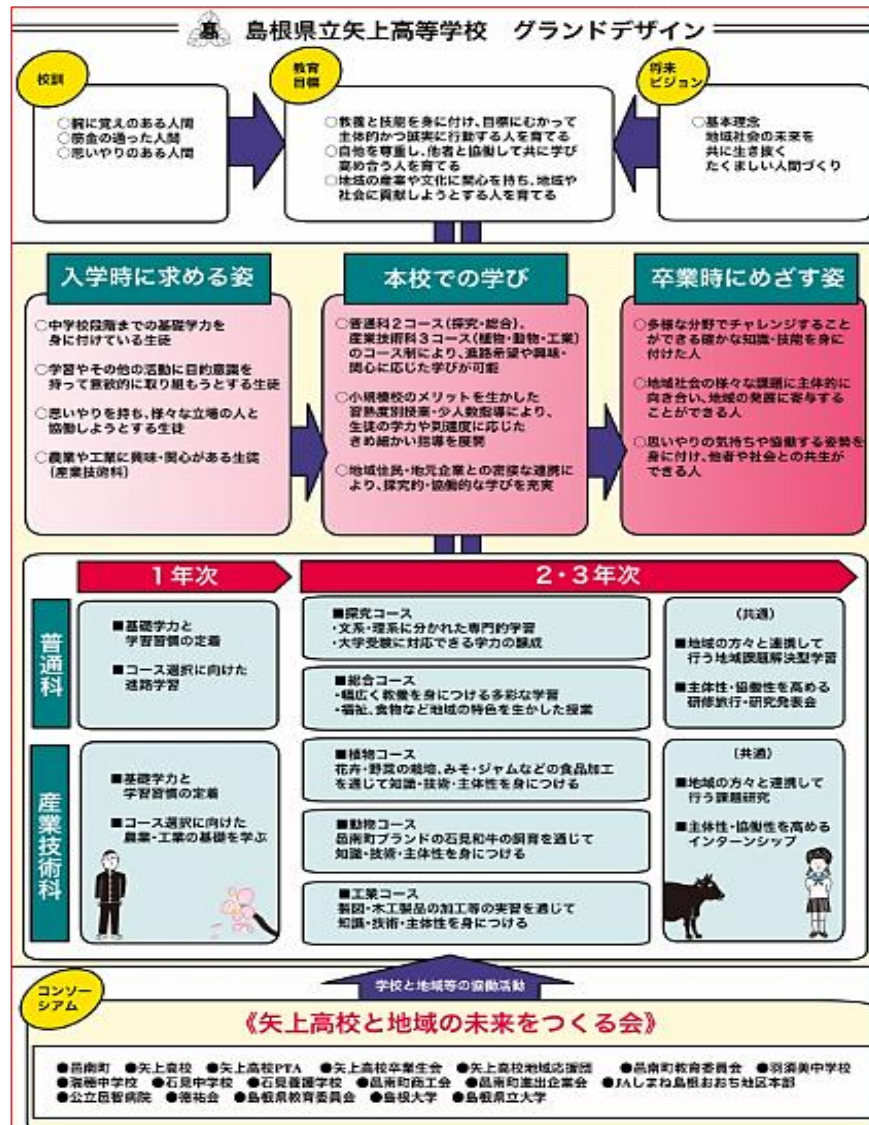
R5年1月17日(火)

令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット

島根県立矢上高等学校 (地域魅力化型)

おおなん協育プロジェクト ～邑南町総がかり！協働で育む “協育”カリキュラムの開発～

- (1) 概要
- (2) 成果と課題
 - ・ 成果物
 - ・ 生徒の変容
 - ・ 校内体制
 - ・ コンソーシアム
 - ・ コーディネーター
- (3) 今後の展望



(1) 概要 おおなん協育プロジェクト～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～¹

目的 「ふるさとを思い、地域の未来をつくる人」の育成

研究内容 地域に飛び込み、地域住民と関わる中で課題を見つけ、多様な人々と協働し、教科や地域の歴史や文化といったさまざまな知恵を結集させ、課題解決を実践するカリキュラムを開発し、地域人材を育成・輩出する。

	R2年度	R3年度	残された課題
総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間数の大幅な増加 ・ 発表会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協育パートナーとの連携強化 ・ 授業時間の緩急 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内での実施体制や地域との関わり方を改めて整備
教科横断型カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科を跨ぐテーマで実践（コンテンツベース） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな教材の制作、実施（コンテンツベース） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、教員同士が話し合う土壌が必要
学校設定教科「起業探究」	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらい策定、教材準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「起業探究Ⅰ」実践開始 ・ ビジコンへ出場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目に向けて教員が変わってもできる準備が必要！
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業コンソーシアム設立 ・ ビジョンの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業を内包する、「コンソーシアム」設立 ・ 島根県立大学と協定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンソーシアムが事業を継続するが、事業費の捻出が課題（当面は県や町補助金）

矢高モデルの確立 ～いつでも・だれでもできるカタチへ～

1 総合的な探究の時間のモデル化

- ヒト：校内体制の整備
協育パートナーの確保
- モノ：教材の整備と更新
- 情報：地域と生徒、教員の連絡システムの整備
→Google Classroomの活用

2 教科横断の土台の構築

- 情報：校内教員研修の実施
→各教科と探究のつながりを明文化
→「現代の国語」話す・聞く
「インタビュー」と連携

3 地域とともにある 学校設定教科「起業探究」の確立

- 起業探究Ⅰ及びⅡの実施
→次年度以降、必修科目へ
→地域を題材にした教材を制作
- ビジコンへチャレンジ
- 実体験の創出（模擬店実施）

4 自走体制の構築

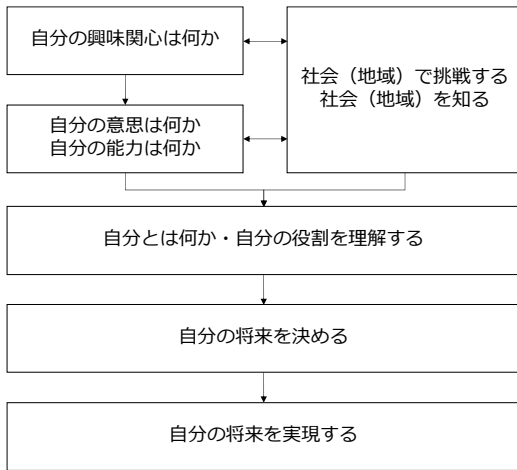
- 情報：教育課程外でも生徒が自走可能にする
→ボランティアボードの設置
探究ポータルサイトの制作
- カネ：食と農研究会の可能性
→自ら活動資金を得るシステム
必要最低限の自走資金の把握
(バス代、謝金等)

(1) 概要 R4年度の取り組み内容 ～総合的な探究の時間のモデル化～

□初めて探究の担当になる教員には、本校での探究は難しいのではないかと矢上高校の探究の形がわかるようにする(後述：成果物)

□生徒の主体的な活動を深化させるには、“壁打ち”が最も重要
 →教員や地域協働学習実施支援員も人数が少ない
 →地域の方に「協育パートナー」になっていただく(後述：コンソーシアム、校内体制)

□高大連携の推進
 立命館大学で中間発表(研修旅行)実施
 →単調になりやすい活動にとっての、ベンチマークへ



成果

・生徒たちが、積極的に地域に関わろうとする姿勢を見せ、「これからも地域の方と活動がしたい」進路希望が地域系の学部に変更した生徒も。

課題

・教材は完成したものの、「生徒観」の擦り合わせが重要。
 →担任と地域協働学習実施支援員は、何度もミーティングをすることになった。
 ・全校での取り組みにはまだまだ課題が残る

(1) 概要 R4年度の取り組み内容 ～教科横断の土台の構築～

- そもそもお互いの教科で
何を学んでいるのかを知らない状況
→まずは教員同士が話し合う機会を作る
- カリキュラム開発等専門家より
「1時間の教員研修よりも、
10分、15分の短い時間での研修はどうか」
とのアドバイス
- 「総合的な探究の時間（課題研究）」と「教科」
のつながり確かめる機会の創出
→「現代の国語」や「英語表現」など、
普段の授業の中で「総合的な探究の時間」と
関わる教員も。



職員会議後の“15分プチ研修”の定例化



「現代の国語」
「話す・聞く」を活用
→総合的な探究の時間で
公民館長にインタビュー

成果

- ・職員会議後の“15分プチ研修”の定例化
→探究だけでなく、
評価や視察報告なども実施
→お互いの授業や教科について、
話し合う風土を醸成

課題

- ・過去2年間で行ったような、
コンテンツベースな教科横断は実施せず。
- ・授業で教科横断することが目的ではなく、
生徒の頭の中で学びがつながることが重要
→地域探究の中で、教員が伴走する過程で
自然と教科横断するようにしたい

(1) 概要 R4年度の取り組み内容 ～地域とともにある学校設定教科「起業探究」の確立～

- 今年度起業探究ⅠおよびⅡが開講
→地域おこし協力隊（1名）伴走していただく
- 2年間は選択教科だったが、
次年度から普通科総合コースの必修科目に。
→年度途中で教材開発
- 昨年度できなかった販売実習が実施できた




成果

- 高校内の耕作放棄地を使って、サツマイモを植付・収穫ができた
- 産業祭での模擬店出店
- 2年間の教材が作成済み

課題

- 2時間のコマ時間だが、1時間ずつの配分のため、地域に出る機会が少なかった
→時間の編成などを工夫する必要あり
- 地域の企業・団体に授業に関わっていただきたい
(月に1度程度)

(1) 概要 R4年度の取り組み内容 ~自走体制の構築~

- 教育課程外で、地域との協働活動が行える体制
 - ・地域系部活動として「食と農研究会」設立
 - 普通科・産業技術科問わず、地域や食と農に興味のある生徒が所属
 - ・地域に出るために、公用車を導入し、生徒が土日に活動する際の「**移動手段**」を確保



←食と農研究会では、学科を超えて校外へ出ていく生徒たち

- 事業費の獲得について
 - 島根県や邑南町の補助金で回していくが、今後は、**自主事業**を検討する必要がある
 - コンソーシアムの法人化も視野に入れる

少人数の活動なら、公用車で！



成果

- ・公用車を活用することで、土日に地域へ出やすくなった (昨年度5回程度→今年度10回程度)

課題

- ・公用車のガソリン代等は、コンソーシアム負担
 - 活動が活発化する反面、ガソリン代などが問題
- ・持続可能な事業運営ができるように、資金を得る必要がある

(2) 成果と課題 ~成果物~

- 知っているようで知らない地元「邑南町」の基礎情報を提供
- そもそも教材が存在しない「総合的な探究の時間」という授業
- 過去の事例の確認や何度も繰り返し確認したいと思った時に…
- そもそも探究は、授業時間を待つ必要はない

The screenshot shows a website interface with a navigation menu on the left (Home, Inquiry Chart, Confirmation) and a main content area. The main area features a flowchart titled '探究チャート' (Inquiry Chart) and 'WCNシート' (WCN Sheet). The flowchart starts with 'テーマ' (Theme) and leads to '問いを深める考具 “探究チャート”' (Tools for deepening questions 'Inquiry Chart'). Below this, there's a section for '他人事にせず、自分が解決する! “WCNシート”' (Without relying on others, solve it yourself! 'WCN Sheet'). A large callout box is overlaid on the screenshot.

**総合的な探究の時間で身につけてほしい
最低限のスキルを2つに厳選
→「探究チャート」として発行 (*他校の事例を参考に)**

The screenshot shows the 'おおなん協育プロジェクトポータルサイト' (Oonnan Kyogyo Project Portal Site). The header includes the project name and a brief description. Below the header, there's a section for 'プロジェクトのミッション' (Project Mission) and '活動を支えるツール * 工事中あり' (Tools supporting activities * Under construction). The 'Tools' section lists '探究活動' (Inquiry Activities) with sub-items like 'プロジェクト概要' (Project Overview), '進捗確認' (Progress Confirmation), '発表スライド (過去資料)' (Presentation Slides (Past Materials)), and 'レポート' (Report). There are also sections for '教材' (Materials) and '地域や世界のこと' (About the region and the world).

成果

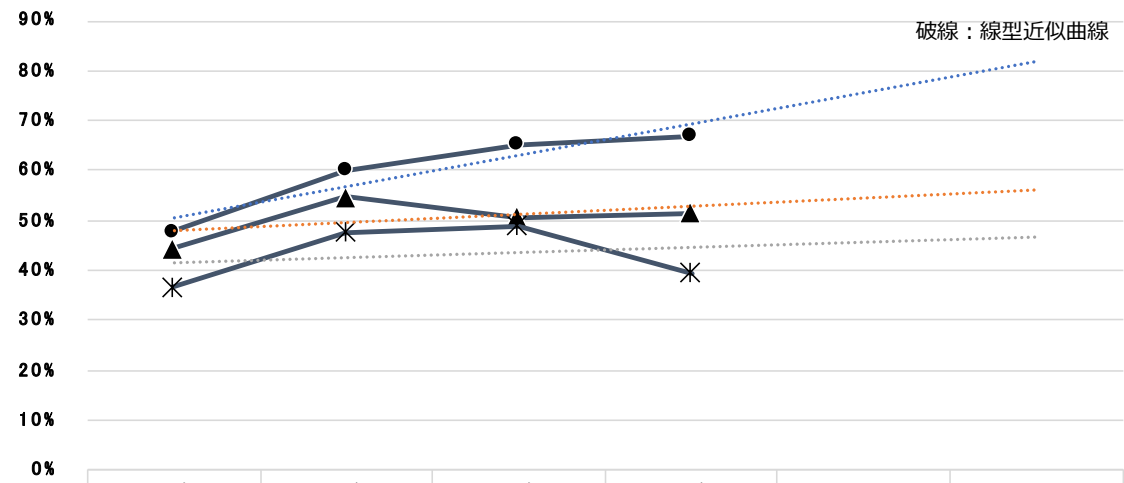
- 思考のプロセスを見える化しており、生徒も教員も地域の協育パートナーも伴走しやすい。
- 過去の取り組みがわかるため、生徒は参考にしやすい。

課題

- R4年度中に開発したため、まだ全ての先生に活用してもらっていない
- 生徒によって活用に差がある
- 更新が属人的なため、更新頻度が落ちる可能性も

(2) 成果と課題 ～生徒の変容～

本事業成果指標<高校魅力化評価システムより>



実施：毎年6月（1学期中）

※n=全校生徒
事業対象の普通科だけでなく、
産業技術科も含む



事業対象学科だけでなく、
学校全体への拡大や
学校のブランドに寄与しているか

成果

- 「地域の課題解決について考える」割合は、事業開始後から拡大している
- ボランティアへの参加は安定しないが、コロナ禍（休校・町内での活動自粛）に依るところが大きい
→線形近似曲線上は、右肩上がり

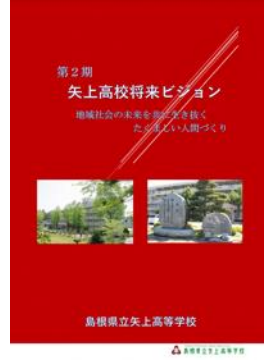
課題

- 授業では地域と関わるものの、プライベートでは地域との関わりが薄い
→地域のボランティア情報などへのアクセス手段がないからではないか？
- 町内出身者の割合も影響しているが、生徒がこれからも地域と関わりたいと思う、新たな仕組み（コンソーシアムなど）が必要か

(2) 成果と課題 ~コンソーシアム~

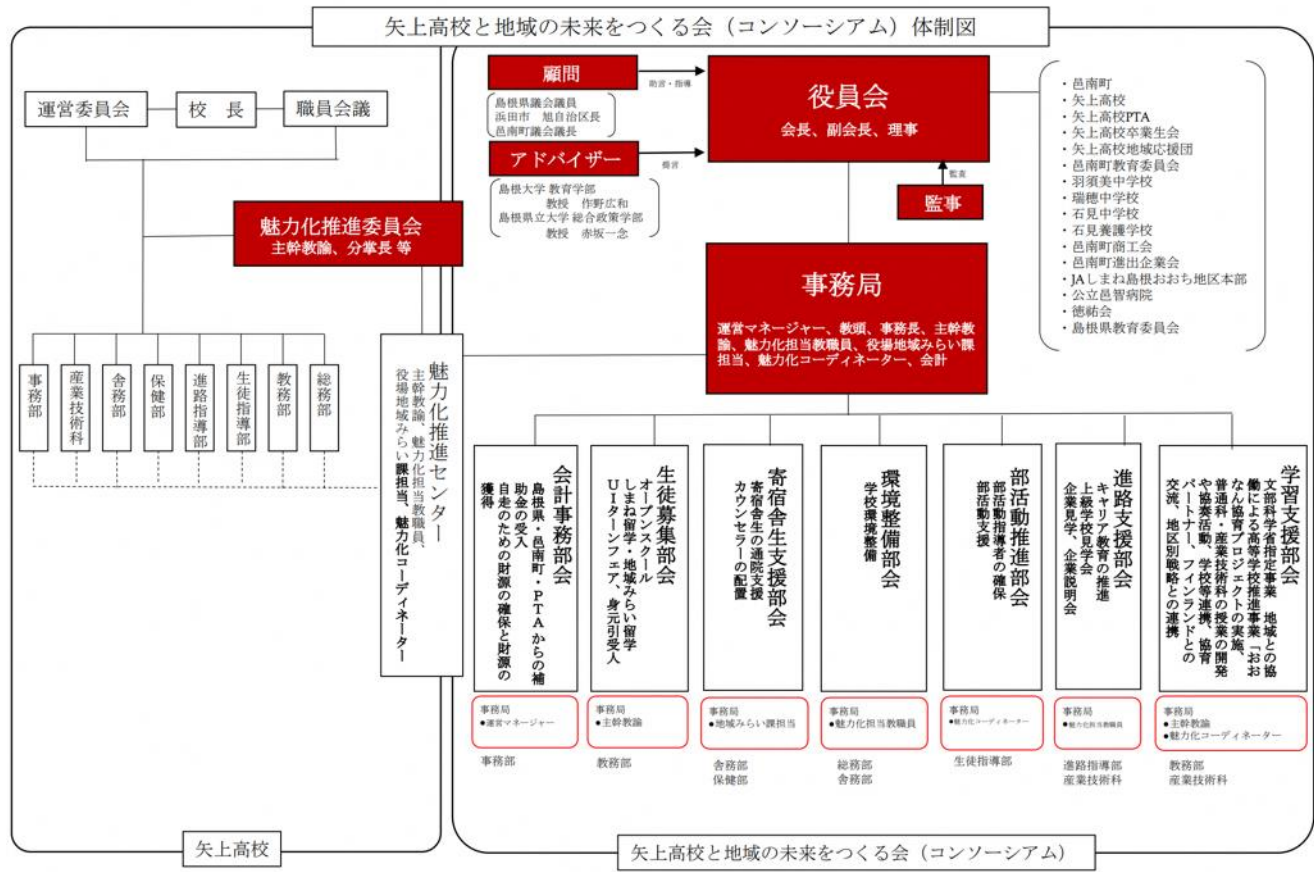
□ R3年3月に立ち上がった
“矢上高校と地域の未来をつくる会”
 (コンソーシアム) ≡ 学校運営協議会

□ **中長期ビジョン**
 ビジョンに則り
 活動計画を策定、予算執行



□ **役員**
 町長や教育委員会を含み、
 産業・医療・福祉、農業等、
 教育に関わる団体の方々 (16社)

□ **「協育パートナー」**
 地域の中で、協力して生徒を育てようと
 思ってくださいる方を「**協育パートナー**」に



成果

- コンソーシアムができたことで、学校予算に限らない活動が可能に。
- 協育パートナー制度が組み込まれ、継続性が担保。
- 学校、役場、コンソの担当者が揃う「魅力化推進センター」が事務局機能

課題

- 事務局の負担は増大 (コンソーシアム役員会と学校運営協議会、2回会議の開催が必要)

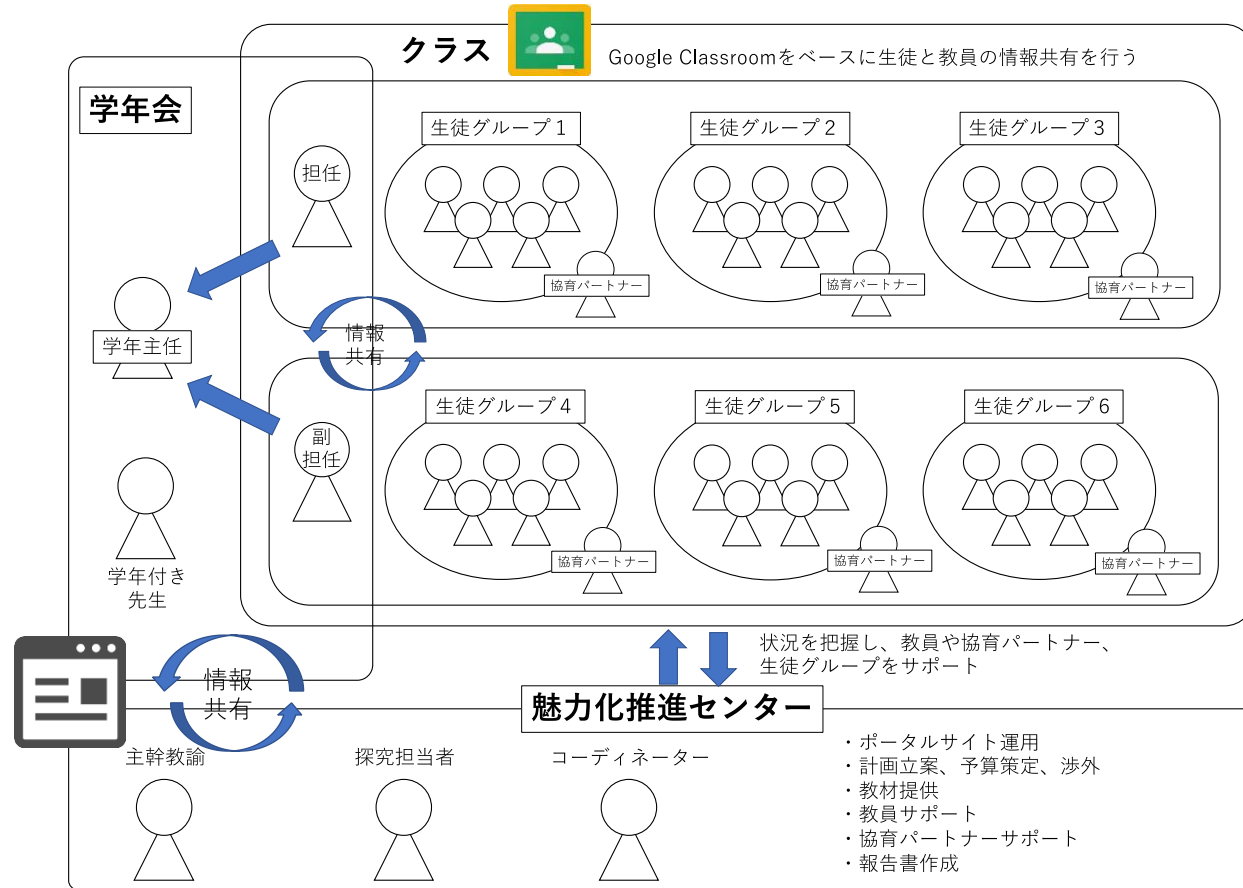
(2) 成果と課題 ～校内体制～

- 「協育パートナー」の存在
→逆に、教員が入らず進捗が不明確（R3年度）

- 今年度
関わる教員の数を増加
学年主任・担任・副担もチームを把握
事務局は全チームを把握
- テーマ設定時に、
協育パートナーと生徒双方でプレゼン

- 地域と生徒が見えないところでつながると…
→報連相の系統が未整備（R3年度）

- 今年度
協育パートナーをGoogle Classroomに招待、やりとりを見える形に。
- 協育パートナーにも研修を実施し、「ねらい」等を確認、伴走のあり方を伝達



成果

- ・地域での実践の数が増加
- ・協育パートナー自身が、地域とつなぐコーディネーターへ
- ・地域の方も、等身大の高校生のことを知ってもらえるようになった（巻き込みの難しさ等）

課題

- ・生徒のテーマベースの場合、これまでの取り組みが継続しない可能性がある
- ・また、地域のニーズがない場合がある
- ・地域のテーマベースの場合、生徒の興味・関心を反映しない可能性がある



▲協育パートナーとの出会い



▲協育パートナーや産業技術科へどんな探究がやりたいかをプレゼン



▲マッチングした協育パートナーと話し合い（1）



▲協育パートナーと話し合い（2）

(2) 成果と課題 ～コーディネーター～

□位置付け

- ・「矢上高校魅力化推進センター」及び「コンソーシアム事務局」に配置
- ・主幹教諭ら含めて6名体制

□地域協働学習実施支援員（コーディネーター）

- ・各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間等の実施時における外部との調整、探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務を担うことから、生徒の学習支援・キャリア教育等の知識・経験や地域における活動等の経験を有している者
- 総合的な探究の時間のファシリテーション、生徒の探究活動の伴走支援、地域への連絡起業探究のファシリテーション、土日の活動支援

- 「矢上高校魅力化推進センター」メンバー一覧
外部団体の所属の人間も、校内分掌に位置付けられている

所属	メンバー	
矢上高校	主幹教諭（センター長）	1名
	探究学習担当教員	1名
邑南町役場	矢上高校担当職員	1名
コンソーシアム	コンソーシアム 運営マネージャー	1名
	コンソーシアム会計担当	1名
矢上高校及び コンソーシアム	コーディネーター 内1名が地域協働学習実施支援員	2名

成果

- ・校内組織（分掌）化しているため、校内業務を支援するなど、本事業以外の活動も実施しやすい
→産業技術科の活動や生徒募集など
- ・人数が少ない分、協育パートナー等、外部人材に依頼しやすい

課題

- ・属人的な業務をできる限り減らし、誰が魅力化推進センターに配属されても高いクオリティを出せるまで、マネジメントする上での整備ができていない

(3) 今後の展望

「三方よし（生徒よし、地域よし、学校よし）」の探究を目指すべきではないか。

継続すべきこと

[ヒト] 協育パートナー制度

- ・ 教員とは異なる伴走（ナナメの関係）で、いつも生徒を引っ張っていただける
- ・ “報酬”の問題→やりがい搾取にならないように

[モノ] 制作した教材の活用

- ・ 探究チャートや探究ポータルサイト（探究のアーカイブ化）
- ・ 教科の授業でも使えるように検討する

残された課題

[体制] 校内体制の改善・促進

- ・ 総合的な探究の時間に携わる教員が限定されている

[情報] 起業探究の見直し

- ・ 選択授業から必修授業へ（人数が増加）

[情報] 高大連携の拡大

- ・ 特に県内の大学との連携を強化する必要がある

[ヒト] 教員等の超過勤務への手続的対応

- ・ 地域での探究活動が土日に集中する→部活動との重なり・平日も休みは取れない

持続可能な運営の方向性

[ヒト] 外部指導員も協育パートナーへ

→ [情報] 地域情報を依頼

[モノ] 制作した教材の更新、シラバス見直し

- ・ 総合的な探究の時間と教科が自然につながるよう、シラバスの見直しを行う

[カネ] FFJ等と同じ仕組みの模索

- ・ 起業探究やFFJでの実例 →海外の事例も視野に検討

[ブランド] 生徒が勝手に探究する学校 そして大人も探究する地域へ

→ [情報] ボランティアボードの活用

[時間] 総合的な探究の時間の日時の見直し

おや！こんなところに、矢上高校のセミナーが！

たくさん“しくじり”を他校の先生に伝え、「持続可能な探究の運営」について考えます。

文科省事業シンポジウム

矢上高校

しくじり探究セミナー

こがまなこと、したらいけんだったわ...

1/27
13:00-15:30
(Fri)

申し込みは
こちらから

